

看護学において若手研究者をどう育てるか? (Ⅱ)

前号に続き、看護学における若手研究者の育成について考える。

わが国の看護学のさらなる発展のためには、これからの若手研究者の育成が重要な鍵を握っている。しかし若手を育成すると一口で言っても、そのために解決すべき課題は多岐にわたっている。研究のグローバル化や他領域とのコラボレーションも進むいま、看護学の「学問」としてのあり方や、「研究とは何か」という根本的な問いが投げかけられているともいえよう。

前号では、わが国の若手研究者育成の現在と課題を概観するとともに、アジア諸国の状況と、学協会等の立場からさまざまな提案と展望が示された。本号では、日本学術会議の若手研究者育成の実際と、日本看護科学学会が行なった若手研究者を対象とする調査を紹介し、最後に、看護学のこれからを担う若手研究者が看護学の未来を縦横に想像し、その創造に向けて活発な議論を展開する。

前号と本号を通じて議論の裾野が広がり、若手研究者の育成を通じて新たな看護学が創造されていくための一助となれば幸いである。

『看護研究』編集室